

戦略的広報 推進協議会 中学校で初のキャラバン

国土交通省や建設業団体でつくる「建設産業戦略的広報推進協議会」

(事務局・建設業振興基金)の関係者が学校に出

向き、体験イベントなどを通じて生徒に建設業の

魅力を感じてもらおう

「キャラバン」が10月31

日、さいたま市の市立春

里中学校で行われた。中

学校での開催は初めて

で、参加人数は過去最大。



作業支援用ロボットを装着し、荷物を持ち上げる生徒



かんながけを披露する宮沢アキユラホーム社長
……
とって身近な産業であることを知ってもらい、将来、もし興味があれば建設業に就職してもらえれば」と呼び掛けた。
キャラバンは授業形式による建設業の紹介と、

1年生270人、建設業の醍醐味体験

あいさつ。国交省の木村官職人に教えてもらいな
実建設市場整備課長は「建設業が実は皆さんに
の体験・展示で構成。建たりした。

このほか、大工出身で一代でハウスメーカーを築いた宮沢俊哉アキユラホーム社長が、かんながけの極意を披露。鏡のような手触りになった木材に生徒たちは驚きの表情を見せていた。
キャラバン終了後、協議会の関係者に対し、生徒たちからお礼の歌が披露された。キャラバンはさいたま市内の小学校でも10月に開催され、年明けには工業高校や普通高校でも行われる。

クイズ形式で建設業の重

要性や仕事の醍醐味(だ

いごみ)を知ってもらっ

たり、職人の手ほどきを

受けながら匠の技にチャ

レンジしてもらったりし

キャラバンには1年生270人が参加。開会式で生徒の代表が「自分たちの生活を支える建設業について学びたい」と